

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

## 特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	調査研究	2
III	研究構想図	4
IV	目指す児童像	5
V	研究の手だて	6
	1 学級活動カードの工夫	6
	2 協働につながる姿の具体化	8
	3 学級活動レターによる自他のよさの共有	10
VI	実践研究報告	11
	〈指導事例1：第1学年〉	11
	〈指導事例2：第4学年〉	12
	〈指導事例3：第6学年〉	13
VII	研究のまとめ	14
	1 事前・事後の調査結果の比較	14
	2 研究の成果と課題	15

## I 研究主題設定の理由

近年におけるグローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。これからの子供たちには、こうした社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。このような視点において、「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし、自分たちでよりよい生活をつくっていく「自治的能力」を高めることができる特別活動の担う役割は、これまで以上に大きくなっていると言える。

「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（2018年 内閣府）の結果によると、日本の若者（13～29歳）は、他国に比べて自己肯定感が著しく低いことが明らかになっている。また、「自分は役に立たないと強く感じている」と回答した日本の若者の割合は51.7%であり、他国に比べ、日本の若者の自己肯定感の低さには、自己有用感の低さが関わっている傾向が高いことが分かった。本研究の実態調査においても、「自分が学級や友達のために役に立っていると思いますか」という質問に対する否定的な回答の割合は26.1%と、全項目の中で最も高い数値となった。加えて、「友達は、あなたのよいところを認めてくれますか」という質問に対する否定的な回答の割合も20.6%と高くなっており、自己有用感と相互評価との関係性が見えてきた。

児童に自己有用感をもちさせるためには、低学年段階から、学級活動を中心とした自発的、自治的な活動を通して、自分ができることを考え、他者と協力し認め合う経験が必要である。他者から認められることで、「自分が他者の役に立つ存在であること」を実感し、更に自分のよさや可能性を発揮する経験を、発達の段階に応じて継続的に積み重ねていくことが重要であると考えた。そのためには、学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」の充実が必須であり、友達との協働を通じて、児童に自らの成長を実感させるため、「話し合い活動から実践までの一連の活動」に焦点を当てることとした。

また、児童一人一人が集団の一員として、その集団の共通の課題に向かって、「自分ができることや頑張りたいこと」をめあてにした。児童自身が集団の役に立ったことを実感し、他者に認められる経験から自己有用感を高めるために、めあてを常に意識させながら実践を積み重ねた。

友達や学級、学校のために、将来的には社会のために、「自分ができること」を考え、他者と協働しながら、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成しようとする児童を育成したいと考え、研究主題を「自己有用感をもち、他者と協働する児童の育成」と設定し、本研究を進めることとした。

## II 調査研究

### 1 調査方法

- (1) 質問紙による
- (2) 調査対象：教育研究員の所属する都内公立小学校 8校  
第1学年～第6学年児童 計1,650名
- (3) 調査実施時期：7月初旬、11月中旬
- (4) 調査項目

調査項目を、ア「自他のよさや頑張りについての項目」、イ「自己有用感ついで項目」、ウ「学級活動における取組についての項目」に分類して調査を実施した。

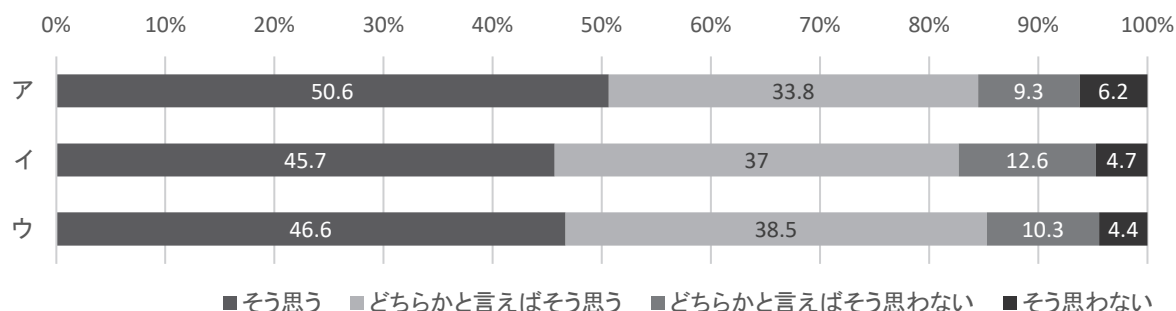
ア	①	あなたは自分のよいところを知っていますか。
	②	友達は、あなたのよいところを認めてくれていますか。
	③	あなたは、友達のよいところを見つけようとしていますか。
	④	あなたは、自分とちがう考えを大切にしていますか。
	⑤	あなたは、話し合い活動や実践（話し合いで決めた取組）の振り返りのときに、友達のよいところを伝えていますか。
イ	⑥	あなたは、学級会で決めたことや自分の役わりを進んで行っていますか。
	⑦	あなたは、自分が学級や友達の役に立っていると思いますか。
	⑧	それは、どんなときですか（自由記述）
ウ	⑨	あなたの学級では、学級会でみんなが進んで話し合っていますか。
	⑩	あなたの学級では、話し合って決めたことにみんなが協力して取り組んでいますか。
	⑪	あなたの学級は、学級会や実践を通して、学級目標に近づいていると思いますか。
	⑫	あなたの学級では、学級会や実践を振り返り、「次はもっとこうしたい」と考えていますか。

※低学年では、同じ質問を発達段階に応じた文言に変え、調査を実施した。

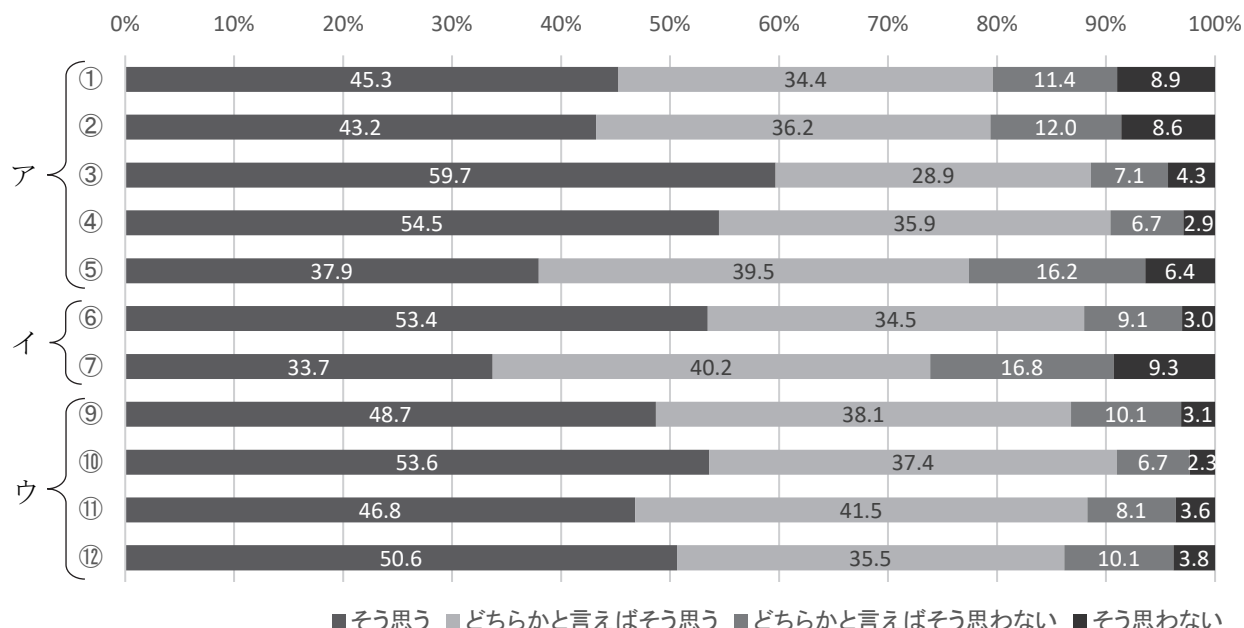
### 2 事前調査の結果

グラフ1は、ア「自他のよさや頑張りについての項目」、イ「自己有用感ついで項目」、ウ「学級活動における取組についての項目」それぞれの回答の合計結果、グラフ2は調査項目ごとの回答結果である。

グラフ1



## グラフ2



グラフ1からは、イ「自己有用感についての項目」において、他と比べ肯定的な数値が低いことが分かる。その中でも特に質問⑦では、26.1%の児童が否定的な回答をしており、学級や友達の役に立っていると感じていない児童が多くいることが分かった。質問⑧では質問⑦を受け、「どんなときに自分が学級や友達の役に立っていると感じるか」について記述させた。「学級会の司会でみんなをまとめられたとき」や「自分たちが企画した遊びで友達が楽しんでくれたとき」などの記述が多く、児童は自分の役割を果たしたり、誰かに認められたときに、学級や友達の役に立っていると感じていることが分かった。一方で、質問⑦で肯定的な回答をしている児童であっても、学級活動の場面を具体的に振り返って記述することができない児童も多く見られた。また、質問③に対しては88.6%の児童が肯定的な回答をしているものの、質問①や②からは、学級の中で自分のよさに気付いていなかったり、認められているという実感をもてていなかったりする児童が20%ほどいることが分かった。学級活動を通して友達のよいところを見付けようとしている児童は多いものの、質問⑤に対する回答結果を見ると、そのよさを実際に友達に伝えられている児童は少なく、児童同士が互いのよさに気付いたり、伝え合ったりする振り返りの工夫や機会の確保が課題であることが分かった。

これらの結果から、私たちは、児童が自他のよさや頑張りに気づき、互いに認め合い、自分のよさや可能性を生かせるようになってほしいと考えた。そこでまず、私たちが目指す児童の「協働につながる姿」を明確にした。そして、一人一人が自分のめあてをもって話し合い活動や実践に取り組み、視点を明確にして活動を振り返る中で、気付いた自他のよさや頑張りを共有することができるよう手だてを考えた。友達のよさを伝え合うとともに、自分のよさに気付くような活動を積み重ねることで、自己有用感をもち、他者と協働する児童を育成できると考え、研究を進めることとした。

### Ⅲ 研究構想図

<p>＜研究の背景＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 中央教育審議会論点整理</li><li>○ 学習指導要領改訂の趣旨</li><li>○ 内閣府調査</li></ul>	<p>＜教育研究員共通テーマ＞</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善</p>	<p>＜特別活動改訂の趣旨＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 特別活動の特性を踏まえた目標の整理</li><li>○ 「人間関係形成」、「社会参画」「自己実現」の三つの視点を踏まえた資質・能力の明確化</li><li>○ 小・中・高等学校のつながり</li></ul>
--	--	--

<p>＜調査研究により明らかになった課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 話合いで決まったことや役割には取り組んでいるが、自分が学級や友達の役に立っていると感じていない児童が多くいる。</li><li>・ 学級や友達の役に立っていると感じている児童であっても、自己のよさや可能性を見いだすまでには至っていない。</li><li>・ 友達のよいところを見付けようとしている児童は多いが、実際に友達のよさを伝えられている児童は少ない。</li></ul>
--

<p>＜目指す児童像＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自他のよさや頑張りを認めることができる児童</li><li>・ 集団の中で自己のよさや可能性を進んで生かすことができる児童</li></ul>
<p>＜研究主題＞</p> <p>自己有用感をもち、他者と協働する児童の育成</p>

<p>＜研究仮説＞</p> <p>課題の設定から実践活動の振り返りまでの一連の活動において、集団の一員として自分ができることをめあてにし、自他のよさや頑張りを共有・実感できる実践を積み重ねることで、自己有用感をもち、他者と協働する児童を育成することができるだろう。</p>
--

<p>＜研究の視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 児童が自分のめあてを設定して実践し、振り返るための指導の工夫</li><li>○ 自他のよさや頑張りを共有・実感できるための指導の工夫</li></ul>	<p>＜目指す児童像に迫るための具体的な手だて＞</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 学級活動カードの工夫 → 話合い活動と実践活動について、自分のめあてと振り返りを1枚にまとめ、自己の成長に気付くことができるように活用する。</li><li>② 協働につながる姿の具体化 → 協働につながる児童の具体的な姿を、発達の段階や場面ごとに整理し、終末の助言において教師が価値付けることで、次の活動につなげることができるように活用する。</li><li>③ 学級活動レターによる自他のよさの共有 → 児童の振り返りの記述から、児童のよさや頑張りをまとめ、学級全体で共有し、次の活動に生かすことができるように活用する。</li></ol>
--	---

#### IV 目指す児童像

- 自他のよさや頑張りを認めることができる児童
- 集団の中で自己のよさや可能性を進んで生かすことができる児童

小学校学習指導要領解説特別活動編 第2章第1節「特別活動の目標」の1(4)「特別活動で育成を目指す資質・能力」を基に、本研究で目指す児童の具体的な姿について、以下のよう整理した。

	育成を目指す資質・能力	目指す児童の具体的な姿 (○話し合い活動 ◇実践)
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個と集団の関係について理解すること</li> <li>・ 集団や人間関係をよりよく構築していく中で大切にすべきことを理解し実践すること</li> <li>・ 課題解決に向けて意思決定し、行動することの意義や、そのために必要となること、大切にすべきことなどを理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提案理由に沿った発言の仕方を身に付けている。</li> <li>○ 友達の意見を受け止め、それを生かす方法を身に付けている。</li> <li>○ 司会の児童が、出た意見を分かりやすく整理する方法を身に付けている。</li> <li>◇ 実践を成功させるために、みんなで協力し合っ</li> <li>て活動することの大切さを理解している。</li> <li>◇ 自分のめあてを意識して、学級全体のために役割を果たすことの大切さを理解している。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、進んでコミュニケーションを図ったり、協働したりしていくこと</li> <li>・ 自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むこと</li> <li>・ 自己のよさや可能性を發揮し、状況を理解し、それを生かしつつ、合意形成や意思決定すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級全体のことを考えて意見を言っている。</li> <li>○ 提案理由に立ち返り、出た意見を比べている。</li> <li>○ 友達の意見のよい点を取り入れながら、新たに提案している。</li> <li>○ みんなが納得できるように意識して意見を述べ合い、合意形成を図っている。</li> <li>○ 話し合いがそれたことに気付き、軌道修正をしている。</li> <li>○ ◇ 前回の振り返りを生かして、設定した自分のめあてを達成しようと努力している。</li> <li>○ ◇ 自分の経験から学んだことを基に、解決策を提案している。</li> <li>○ ◇ 友達や学級全体のことを考えてアドバイスしている。</li> <li>○ ◇ 友達のよさに気付き、振り返りの時に伝えている。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとすること</li> <li>・ 集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくらうとすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ◇ 実践の目的をよく考えて話し合い、決めたことに進んで取り組もうとしている。</li> <li>◇ 友達に声を掛け、励ましながら活動しようとしている。</li> <li>○ ◇ 困っている友達を助けたり、できたことや頑張ったことを伝えたりしようとしている。</li> <li>○ ◇ 友達のよさや頑張りを見付け、次の活動に生かそうとしている。</li> <li>○ ◇ 自分や学級の成長やよさを生かして、次回のめあてを考えようとしている。</li> </ul>

V 研究の手だて

研究仮説を検証するために、以下の三つの手だてを講じ、研究を進めた。

1 学級活動カードの工夫

学級活動カードでは、めあての設定から振り返りまでの一連の活動を1枚にまとめ、ファイルに貼り重ねていく。そうすることで、自己の成長やよさ、可能性を実感し、それらをすすんで生かそうとする意欲や態度につなげることができる。(下記例:「〇〇さん ようこそパーティーをしよう」に向けて)

第( )回 学級活動カード( / ) 年 組 名前(		<b>表</b>
<b>*話合い活動*</b>		
めあて	<p><b>ぼく・わたしは、</b> 友達の意見のよいところを見付けながら提案をします。</p>	
ふりかえり		
1 自分のがんばったところ	友達のよいところを見付けて、その理由も発表することができた。	
2 友達のよかったところ		
友達の名前	よかったところ	
〇〇さん	〇〇さんの賛成の理由が、説得力があっていいなと思った。	
3 クラスのよかったところ	みんながよく話し合って、解決案を出すことができた。	
4 次の話合いでがんばりたいこと	司会を助ける発言をして、話合いがうまく進むようにしたい。	
		話合い活動後の実践活動名を書く。
<b>*&lt;〇〇さん ようこそパーティー&gt;* </b>		
めあて	<p><b>ぼく・わたしは</b> 〇〇さんもみんなも楽しめるように、班の人と協力して演じます。</p>	
ふりかえり		
1 自分のがんばったところ	劇がおもしろくなるように、セリフの言い方を班の人にアドバイスした。	
2 友達のよかったところ		
友達の名前	よかったところ	
〇〇さん	司会役で〇〇さんとみんなが仲良くなれるように上手に盛り上げていた。	
3 クラスのよかったところ	ゲームの時、〇〇さんと仲良くなるために、みんながすすんで話しかけていた。	
4 話合い活動と実践の感想	話合いで協力して決め、パーティーでも班で協力したので、〇〇さんに喜んでもらった。	



<b>議題：</b> ○○さん ようこそパーティーをしよう		<b>裏</b>
<b>司会</b> ( ) ( ) <b>黑板</b> ( ) ( ) <b>ノート</b> ( )		
<b>提案理由</b> 楽しいパーティーを開くことで、転入生の○○さんとクラスみんながお互いを知り、仲良くなれると思うから。		
<b>決まっていること</b> 日時：○月○日 (○) ○～○時間目 場所：教室 内容：わたしはだれでしょうゲーム、班発表 (クイズ・劇など)		
<b>自分の考え</b>	<b>話し合い①</b> わたしはだれでしょうゲームの工夫 正解の後に自分の好きな○○について紹介する。	<b>理由：</b> 自分の好きなことについて知ってもらえれば、そのことでたくさんの友達と話ができるから。
	<b>話し合い②</b> 発表の工夫 みんなで半円を作り、発表する班は前に出てみんなの顔を見ながらクイズを出す。	<b>理由：</b> みんなの反応が分かりやすく、声も聞こえやすいから。
<b>決まったこと</b>		事前に自分の考えを整理しておく。
① クイズの内容は○○さんの知りたい内容にし、正解の後には、「自分の好きな○○」について紹介する。 ② 互いの顔が見られるように半円になり、発表する班は中心に立って発表する。		

(1) 活用の方法

- ア 話し合い活動と実践について、児童が自分で設定しためあてから振り返りまでを1枚にまとめる。このカードを継続して毎回貼り重ねていく。
- イ 話し合い中は表面を谷折りにする。表面の自分のめあてと、裏面の提案理由及び自分の考えの両方が見えるようにしておくことで、自信をもって話し合いに参加できるようにする。振り返りや実践の際は、表面のみを使用する。

(2) 指導上の留意点

- ア めあてについて
 

集団の一員として、自分ができていることを考え、めあてを設定できるようにする。提案理由や学級目標を意識させ、協働につながる内容になるよう指導・助言する。実践のめあてについては、相手意識や目的意識をもたせることが大切である。また、児童のめあてを学級活動レターで紹介し、友達のめあてから新たなめあてを設定することができるようにすることも効果的である。
- イ 振り返りについて
 

振り返りの欄を、自分、友達、クラスと分けたことで、振り返りの視点が明確になっている。児童がそれぞれについて意識して活動に取り組み、振り返ることができるようにする。教師は、自分の頑張ったところや、友達やクラスのよかったところについてコメントを入れたり、学級活動レターに掲載したりして価値付ける。
- ウ 感想について
 

話し合い活動と実践のつながりを意識し、話し合い活動から実践までの一連の活動を通して、成果と課題を考えて感想が書けるようにする。次回へつなげる手だてとして、学級活動レターに掲載することも効果的である。





### 3 学級活動レターによる自他のよさの共有

調査研究の結果から、友達のよいところを伝えられていない児童や、学級や友達の役に立っていると感じていない児童が多くいることが分かった。このような課題を解決するためには、児童が自他のよさや頑張りに気付き、それらを共有することができるようにする手が必要であると考えた。そこで、児童が学級活動カードに書いた振り返りを抜粋する形で「学級活動レター」にまとめ、学級全体で共有することにした。教師が児童の自己有用感や自己肯定感を高めるために学級活動レターを発行していくことで、話し合い活動や実践への意欲を高め、友達と協働しながらめあてを達成しようとする努力することにもつながると考えた。

#### (1) 活用の方法

話し合い活動や実践の振り返りで取り上げることができなかった児童の記述を中心にレターを作成する。また、レターには教師からの助言等も掲載し、一連の活動の中で見られた児童の協働につながる姿や一人一人の成長、学級全体の変容を価値付ける。教師が価値付けることによって、児童一人一人が友達から認められていることに気付かせたり、次の活動に自ら進んで取り組んだりすることができるようにする。また、必要に応じて次回への課題を問い掛け、さらに意欲を喚起させる。

例) 友達のよかったところ

- ・司会のAさん 一人一人の意見を大事にしながら話し合いを進めていた。
- ・Bさん みんなの意見をつなげるような発言をされていて、話し合いが進んだ。

例) 自分の頑張ったところ

- ・友達の意見を大事にしながら意見を言ったり、聞いたりした。
- ・みんなの応援を頑張った。困っている人に声を掛けた。

例) 学級のよかったところ

- ・みんなが自分の役割を果たして自分たちで集会をつくりあげることができた。
- ・みんなで協力して準備をすることができて、クラスの仲がよくなったと思う。

○年○組 学級活動レター 令和元年 月 日( )  
○年○組担任○○○○

**○友達のよさ**

- ・○○さんが毎回司会を助ける発言をされていてよいと思う。
- ・○○さんが人の意見を取り入れて考えていた。
- ・○○さんがうなずいたり、手を挙げたり、自分の意見をしっかり表現していた。
- ・○○さんと○○さんが進んで準備を手伝っていた

**○自分のがんばったところ**

- ・○○さん 友達の意見をしっかり聞いて、大事にできた。→話し合いで大切なことができたね!
- ・○○さん 反対するだけでなく、できるようにするにはどうしたらよいか考えた。  
↑おかげで反対していた人も納得できました!
- ・○○さん 自分の係が終わったら他のところを手伝った →頑張りましたね!

**○クラスのよかったところ**

- ・みんなが協力して準備や片付けをしていた →協力したからうまくいきましたね!
- ・勝ち負けにこだわらず、雰囲気よかった →提案理由を意識できましたね!

**○担任より**

司会グループのみんな、しっかり準備をし、学級会を一生懸命進めました。集会では準備から本番、片付けまで自分の役割をしっかりと果たしている人が多かったのでよかったです。役割を果たし、友達と協力したから、大成功しましたね。次はもっともっとみんなのよさに気付ける活動ができると思います。次の学級会も楽しみですね。

気付きを共有する。

自他のよさや頑張りに気付かせる。

教師が褒め、価値付ける。

次の課題解決への意欲をもたせる。

#### (2) 指導上の留意点

- ア レターは年間を見通して作成し、学級全員が掲載されるよう配慮する。
- イ レターは学級活動ファイルに貼り重ね、次の活動の際に振り返ることができるようにする。

## VI 実践研究報告

### 【指導事例1】第1学年（話し合い活動：令和元年9月30日、実践：10月9日）

【議題】げんきにこにこパーティーをしよう

【提案理由】もっと4くみがなかよくなるために「4くみ げんきにこにこパーティー」をしようと思ったから。

	●児童の活動や様子	★指導上、留意した点	◆協働につながる児童の姿 「協働につながる児童の発言」 『協働につながる児童の記述やめあて』
話し合い前の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動レターで、自分や友達によさや頑張りを学級全体で共有した。</li> <li>●学級活動カードに、次の議題に対しての自分の考えや、次回の話し合いのめあてを記入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学級活動レターの内容を共有しながら、一人一人の頑張りや学級全体の成長の価値付けを行った。</li> <li>★児童のめあてをいくつか紹介し、次回への意識付けを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆これまでの活動を振り返り、友達によさや頑張りを見付け、自分のよさを認め、次回への意欲を高めていた。</li> <li>『うまく自分の意見が言えなくて困っている〇〇さんを助けてあげていた△△さんは、ナイスだと思った。』</li> <li>『次は、こにこパーティーをみんなでがんばりたい。』</li> <li>◆みんなのために自分ができていることを意識して、めあてを決めることができた。</li> <li>『自分の考えたことをたくさん発言したい。』</li> <li>『みんなが困った時に、アイデアを出したい。』</li> </ul>
話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合うこと1「あそびをきめよう」について意見を出し合った。</li> <li>●「誰がいなくなったでしょうかゲームと影当てゲームを合体すれば、他の遊びもできると思います。」と、みんなの考えを大切に解決案を出していた。</li> <li>●合体した遊びができるか、実際に試してみてもイメージを共有した。</li> <li>●合体した案を含めて、3つの遊びに決めることができた。</li> <li>●友達によさや頑張りを伝え合った。</li> <li>●友達や先生の話聞き、学級活動カードに、振り返りを記入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★教師が司会グループに入り、話し合いが混乱したり進行が停滞したりした際には、指導・助言を行った。</li> <li>★話し合いで意見が分かれてしまった時の解決策（順番・合体・時間を分けて行う等）を提示した。</li> <li>★合体して複雑になった遊びについては、その場で実演してみても、簡単にできるかどうかを確認するよう助言した。</li> <li>★よかったところを見付ける視点を事前に伝えた。</li> <li>★司会グループへの称賛、よさや頑張りを共有し、協働につながる姿を価値付けた。</li> <li>★学級全体の成長や次回への課題（もっとよくなるために、意識してほしいこと）を伝えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆意見が分かれた場合は、事前に学級で決めた「なかよし」の定義を意識して、よりよい遊びを選んだり、合体したり、できなかった遊びは中休みに行ったりするなど、一つ一つの意見を大切にすることができた。</li> <li>「どの遊びにも賛成意見が出ていますが、どのように決めていきますか。」</li> <li>「できなかった遊びは、中休みにやりましょう。」</li> <li>◆決まった遊びのルールが分からなかったり、イメージが湧かなかったりする児童がいた場合、その場で実演し、共通理解を図ることができた。</li> <li>「今、ここでやって確かめてみよう。」</li> <li>◆話し合いを振り返り、友達によさを見付け、伝え合っていた。</li> <li>「〇〇さんが、△△さんが困っている時に、助けてあげてよかったです。」</li> <li>「〇〇さんが、たくさんうなずきながら私の話を聞いてくれていて、とても嬉しかったです。」</li> <li>◆自分の成長に気づき、次への意欲を高めていた。</li> <li>『手を挙げて、自分の考えたことを言いたい。』</li> <li>『自分の考えを手を挙げて言えたから、次はみんなが困っているときに助けられるようにしたい。』</li> </ul>
話し合い後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動カードに、実践に向けた自分のめあてを記入した。</li> <li>●「中休みにルール説明を考えよう」と係ごとに進んで声を掛け合っていた。</li> <li>●係ごとに役割分担をして、本番に向けて準備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★いくつかのめあてを紹介し、友達やクラスのためにできることを意識して、めあてを決められるよう助言した。</li> <li>★係ごとにやることを明確にして、協力する部分や担当する部分を相談して準備を進めるよう助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆クラスのために自分が頑張ることを具体的に考え、めあてを立てていた。</li> <li>『司会のときは、みんなが聞こえるように大きな声で話したい。』</li> <li>『もっとみんなと仲良くなるために、あまり話したことがない、〇〇さんとも話してみたい。』</li> <li>◆係ごとに進んで声を掛け合い、相手の意見や思いを大切に歩み寄りながら準備をしていた。</li> <li>「遊びの見本を僕がやるから、〇〇さんは隣でルールを説明してね。」</li> <li>「〇〇さんがルール説明したいなら、僕が準備をするよ。」</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>●司会が中心となって会の進行を行った。</li> <li>●係ごとに決まった役割を果たしながらも、状況に応じて臨機応変に行動していた。</li> <li>●タイムキーパーが「時間だよ」声を掛け、どの遊びにも時間が取れるようにしていた。</li> <li>●ナイスタイムで、互いによさや頑張りを伝え合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★全体の進行やルール説明など、全てが児童中心となっていけるよう、見守りを中心とした。</li> <li>★状況が混乱したり、トラブルが起きそうになった時のみ介入した。</li> <li>★チームの中で互いのよかったところや頑張っていたことを伝え合った。また、全体でも友達よかったところを共有した。</li> <li>★一人一人がみんなのために、チームの一員として力を発揮できたことを大いに称賛した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆同じ役割の仲間と協力しながら、会を進めていくことができた。</li> <li>『～さんと一緒に、大きな声でルールを説明することができた。』</li> <li>「まだ、呼ばれてない人は手を挙げてください。次は、いま手を挙げている人を優先にします。」</li> <li>◆クラス全体のために、自分の役割以外にも臨機応変に動いたり、友達を助けたりすることができた。</li> <li>「〇〇さんが、話しているから静かにしよう。」</li> <li>「時間がなくなってきたので、次は鬼になる人を3人に増やします。」</li> <li>◆友達によさを見付け、進んで伝えようとしていた。</li> <li>「お笑い係が止まってしまった時に、〇〇さんが助けてあげてよかったです。」</li> <li>『木とリスチームの説明が分かりやすかった。』</li> </ul>



【指導事例2】第4学年（話し合い活動：令和元年9月27日、実践：令和元年10月7日）

【議題】かくし芸大会をしよう

【提案理由】みんなのことを知ると、もっと仲良くなれると思うから。

	●児童の活動や様子	★指導上、留意した点	◆協働につながる児童の姿 「協働につながる児童の発言」 『協働につながる児童の記述やめあて』
話し合い前の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動レターを配布し、自他のよさや頑張りを学級全体で共有した。</li> <li>●レターを読んだ感想を発表した。</li> <li>●学級活動カードに、今回の議題に対しての自分の考えや、話し合いのめあてを記入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学級活動レターに記載した児童の記述を価値付けながら全体で共有した。</li> <li>★友達や学級のために、自分の力を生かせるようなめあてを決めるよう指導した。</li> <li>★めあてが決められない児童へは、友達のめあてに注目させたり、以前の学級活動カードを見たりして参考にするよう助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前回の話し合い活動や実践を振り返り、クラス全体のよさや課題を見だし、次回への意欲を高めていた。 「〇〇さんは、友達のために頑張っていたんだ。すごいね。」</li> <li>「ばくも友達のためになることをしてみたい。」</li> <li>◆学級活動レターを活用し、友達やクラスのためになること意識し、めあてを決めていた。 『たくさん発表して積極的に話します。』 『みんなの意見を大切にします。』</li> </ul>
話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合うこと1「かくし芸がない人はどうするか」について意見を出し合った。</li> <li>●「みんなのことをよく知ることが提案理由だから、かくし芸がない人も、自分のできることを披露した方がよい」という意見を出した。</li> <li>●特技的なことが無くても、授業で習ったことや習い事でやっていることを全員披露しようという意見で、合意形成を図った。</li> <li>●学級活動カードに振り返りを書いた。</li> <li>●友達のよかったところを発表した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★児童の話し合いが停滞したり混乱したりした際には、提案理由に立ち返るよう助言した。</li> <li>★司会が進行に滞った際には、どのように進めればよいかを学級全体に聞くよう助言した。</li> <li>★かくし芸のない児童にも披露を強要するような雰囲気になった際には、学級の目標に立ち返り、友達を思いやることのできるよう助言した。</li> <li>★振り返りでは、かくし芸を見ている側にどんなことができるかを問い掛け、温かい雰囲気の中で集会が行われるよう助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆かくし芸のない友達も、参加して楽しめる方法を話し合っていた。 「全員出たほうが提案理由に近づける。」 「友達と話し合って、かくし芸をしたらどうか。」 「失敗してもやったほうがよいと思う。」 「見ている人は、拍手をしたり応援する声掛けをしたりすればいいと思う。」 「見ている人は、友達のかくし芸を心にやき付けるといいと思う。」 『次はやさしい声かけをしていきたい。』 『いつもより友達を思いやる意見が多かった。』 『もっと発言して、クラスのためになれるよう努力したい。』 『〇〇さんが、自由に発言している人によく注意していた。』 『〇〇さんが、私が困っている時に、～～って言えばいいんじゃない、と助けてくれた。』</li> </ul>
話し合い後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動レターを配布し、自他のよさや頑張りを学級全体で共有した。</li> <li>●レターを読んだ感想を発表した。</li> <li>●学級活動カードに、今回の議題に対しての自分の考えや、話し合いのめあてを記入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学級活動レターに記載した児童の記述内容を、価値付けながら話した。</li> <li>★次の実践につながる児童の気付きが、他の児童にも伝わるように話した。</li> <li>★友達や学級のために、自分の力を生かせるめあてを決めるよう指導した。</li> <li>★めあてが決められない児童へは、話し合いの終末で話した教師の助言を想起させ、めあてを決めるよう助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆話し合い活動を振り返り、クラス全体のよさや課題を見だし、次回への意欲を高めていた。 「〇〇さんのことは、私も気付いてたよ。」 「〇〇さんは、友達のためにこんなこともしてたんだ。」</li> <li>◆学級活動レターを活用し、友達やクラスのためになること意識し、めあてを決めていた。 『〇〇くんとチームでとび箱をとびます。』 『みんなで思いっきり楽しみます。』 『友達の発表を最後までしっかり見ます。』 『かくし芸を分かりやすく披露します。』</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>●司会の準備まで手が回らなかったが、その場で経験のある児童が教えながら臨機応変に進めた。</li> <li>●一人一人が自分のできることを考え、かくし芸を披露した。</li> <li>●話し合い活動時の教師の終末の助言を意識しながら、自分たちで活動を進めた。</li> <li>●拍手が小さい時には、もっと拍手を送ったり激励したりするよう司会が声掛けをし、温かい雰囲気づくりをした。</li> <li>●否定的な言動が出た際には、互いに注意し合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★友達のかくし芸を否定するような言動があった際には、提案理由と関連付けて毅然とした態度で指導した。</li> <li>★かくし芸を披露することに戸惑っている児童がいたため、周囲にできることはないか問い掛け、支え合い励まし合う雰囲気づくりを意識できるようにした。</li> <li>★かくし芸を披露することに消極的だった児童の様子には特に注視した。</li> <li>★自分らしさを表現することの楽しさを味わえたことを価値付けた。</li> <li>★振り返りでは、みんなで作った上げたかくし芸大会になったことを大いに称賛した。</li> <li>★提案理由が達成された集会だったことを称賛した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆拍手をしたり応援したりしながら、かくし芸大会を楽しんでいた。 「〇〇くんならできるよ。やってみて。」</li> <li>◆途中で技を披露できなくなってしまった児童に対して、手伝って一緒にやってあげていた。 「一緒に楽譜を読んであげようよ。」</li> <li>◆恥ずかしがっている児童に対して、みんなで勇気付ける声掛けをしていた。 「みんなでもっと応援しましょう。」</li> <li>◆見ている側が雰囲気を楽しくしながら進めていた。 「盛り上げるためにもっと声を出そうよ。」</li> <li>◆自分のめあてや提案理由を意識して、活動を振り返っていた。 『勇気を出して一番最初にやることができました。』 『〇〇さんが司会の進め方を教えてくれたからやりやすかった。』 『みんながかくし芸を自分の個性として発表していた。』 『もっとみんなのことを知りたくなった。』 『意外な一面を知れてもっと仲よくなった。』 『クラスがいい方向に向かっていると思う。』</li> </ul>

【指導事例3】第6学年（話し合い活動：令和元年11月25日、実践：令和元年12月23日）

【議題】6の3の思い出ムービー（OM）を作ろう

【提案理由】後から見返して、このクラスになってよかったと思えるようなビデオを残したいから。

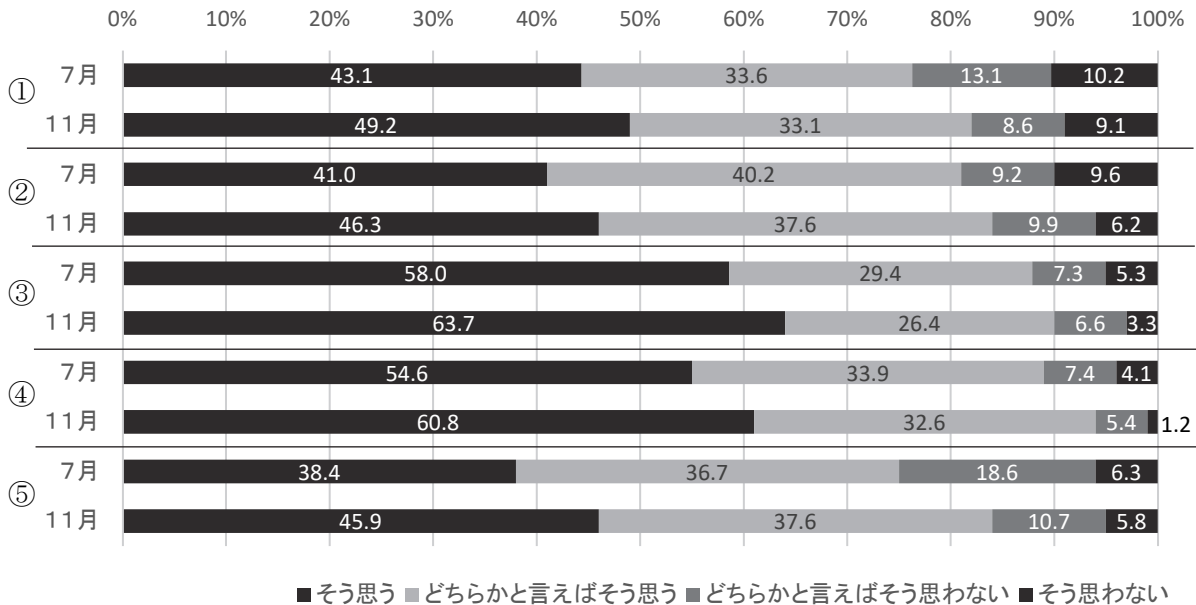
	●児童の活動や様子	★指導上、留意した点	◆協働につながる児童の姿 「協働につながる児童の発言」 『協働につながる児童の記述やめあて』
話し合い前の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動レターを配布し、前回の議題における自他のよさや頑張りを学級全体で共有した。</li> <li>●学級活動レターを読みながら、感想を交流した。</li> <li>●学級活動カードに、次回の話し合い活動のめあてと、「話し合うこと」に対する自分の考えを記入した。</li> <li>●司会グループが学級活動カードを集め、出た意見を短冊にまとめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学級会レターに記載した児童の記述内容を価値付け、自他のよさや頑張りに気付けるよう意識させた。</li> <li>★次のめあての参考になるように、協働シートを活用して様々な協働につながる姿を紹介した。</li> <li>★友達のよさに話し合いの中で気付くことができるよう、めあてを交流した。</li> <li>★司会グループが自信をもって運営するために、話し合い活動の流れを確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前回の話し合い活動や実践を振り返り、クラス全体のよさや課題を見出し、一人一人がめあてを意識したり、全員で課題解決を図ろうという思いをもったりしていた。</li> <li>「〇〇さんは、計画表を作ってグループの中心となって準備を進めてくれた。」</li> <li>「自分から協力する人もいたが、頑張る人に頼ってしまったところを次回解決したい。」</li> <li>◆学級活動カードや学級活動レターを活用し、前回の自分のめあてと比較したり、クラスのためになること意識したりして、めあてを決めていた。</li> <li>『時間内に決めるための意見を言います。』</li> <li>『意見を最後まで聞き、友達のよいところを見付けます。』</li> </ul>
話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合うこと1「思い出ムービーの内容を決めよう」について、事前に出し合った意見を基に話し合った。</li> <li>●話し合うこと2「役割を分担しよう」について、事前意見の他に必要な役割やあると盛り上がる役割について話し合った。</li> <li>●「台本はみんなで作りたい」という意見から、台本係は無しにして、みんなで作ることに決まった。</li> <li>●「一日の流れを撮りたい」という意見にみんなが賛成し、話し合うこと1で決まったことから撮影する順番を決めた。</li> <li>●学級活動カードに振り返りを書き、自分が頑張ったことや友達のよかったところを発表した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★児童の話し合いが停滞したり混乱したりした際には、提案理由に立ち返って考えるよう助言した。</li> <li>★自治的活動の範囲を超える発言や、「決まっていること」を変更しようとする意見が出た際には、その場で指導や助言をした。</li> <li>★協働の視点を共有するために、個人やクラス全体の協働につながる具体的なよさや頑張りを価値付けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆提案理由に沿って自他のめあてを意識しながら話し合っていた。</li> <li>「もっとこうしたいとかがあれば言ってください。」</li> <li>「他の誰かに見せるのではなく、自分たちだけで見るのだから、特に台本はいらないと思います。」</li> <li>「みんなが納得してすんなりできればいいですが、嫌な気持ちになる人がいるかもしれないので、台本係で決めてもよいと思います。」</li> <li>「みんなの考えをまとめて、一日の流れを撮るといのはどうですか。」</li> <li>『司会がみんなの意見を確認しながら話し合いを進めていたのがよかった。』</li> <li>『自分のめあてを達成している人がたくさんいた。』</li> <li>『話し合いが停滞した時に〇〇さんが、進めていくための意見を言っていた。』</li> <li>『友達の意見を尊重しながら、自分の意見もたくさん言えた。』</li> <li>『友達の意見に相づちを打ちながら聴くことができた。』</li> <li>『みんなが団結して話し合いを進めていた。みんなが納得していた。』</li> </ul>
話し合い後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動レターを配布し、自他のよさや頑張りを学級全体で共有した。</li> <li>●学級活動レターを読んだ感想を交流し、実践に向けての共通の課題を確認した。</li> <li>●思い出ムービーの役割を分担した。</li> <li>●学級活動カードに実践活動のめあてを記入した。</li> <li>●クラス全体や役割ごとに協力し合い、思い出ムービー上映に向けて準備を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自他のよさや頑張りを共有し、実践に向けての意欲を高めるために、学級活動レターに記載した児童の記述内容を価値付けた。</li> <li>★友達やクラスのために自分の力を生かせるめあてを決められるように、学級活動レターと学級活動カードを参考にしよう指導した。</li> <li>★全員がめあてをもって、実践に向かえるよう、めあてが決められない児童には個別の指導や助言をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学級活動レターを活用しながら話し合い活動を振り返り、自他やクラスのよさ、頑張りを、全体で解決すべき課題を見出し、次回への意欲を高めていた。</li> <li>「〇〇さんが発言している人の方を向いて聞いてた。」</li> <li>「意見の意味を理解しようとしながら話を聞くことができた。」</li> <li>「みんなが友達の意見を尊重していた。」</li> <li>◆学級活動レターや学級活動カードを活用し、実践に向けてのめあてを決めていた。</li> <li>『協力して係の役割を果たし、思い出ムービー作りに貢献します。』</li> <li>『係で話し合い、思い出ムービーが盛り上がるように準備します。』</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合いで決めた流れに沿って、撮影係を中心に思い出ムービーを撮影した。</li> <li>●感じたことをみんなで伝え合いながら思い出ムービーを観賞した。</li> <li>●見た後に、提案理由「このクラスになってよかったと思えたこと」について、感想を伝え合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★クラス全員が出演しているかどうか、撮影係と一緒にチェックした。</li> <li>★協働につながる姿を終末の助言で伝えるために、積極的に思いを伝えている児童の発言を記録した。</li> <li>★一人一人のめあての達成が、提案理由の達成につながったことを大いに称賛した。</li> <li>★役割ごとに協力して進めてきたからこそ出来上がった思い出ムービーであることを称賛した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆映像を見て思ったことを伝え合ったり、拍手をしたりしながら思い出ムービーを楽しんでいた。</li> <li>「撮影係はみんなが映ることを意識しながら撮ってくれた。」</li> <li>「係や学級会の感じが6年3組らしくてよかった。」</li> <li>「係給食で話したことを実践するのが楽しかった。」</li> <li>◆自分のめあてや提案理由を意識して振り返っていた。</li> <li>『編集の仕方を教えながら、自分の役割を果たすことができた。みんなも喜んでくれてよかった。』</li> <li>『改めて一日の様子を見ると、6年3組のよさやみんなの仲のよさが分かった。』</li> </ul>

## VII 研究のまとめ

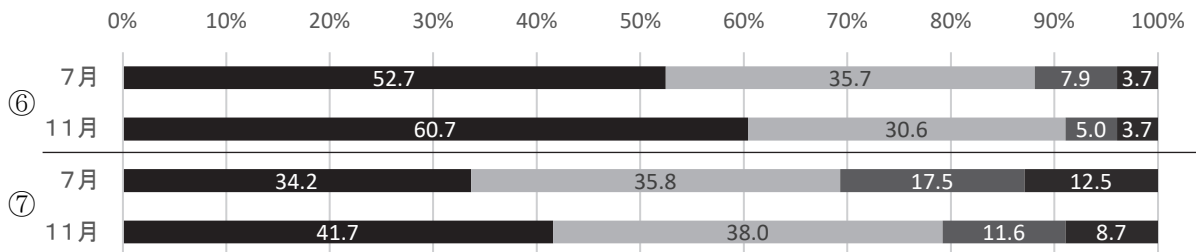
### 1 事前・事後の調査結果の比較

※前述の調査研究と同様の方法で、教育研究員が担任する8学級の児童245名を抽出して行った。(1年生55名、2年生26名、4年生31名、5年生64名、6年生69名)

#### 【分類項目ア「自他のよさや頑張りについての項目」】

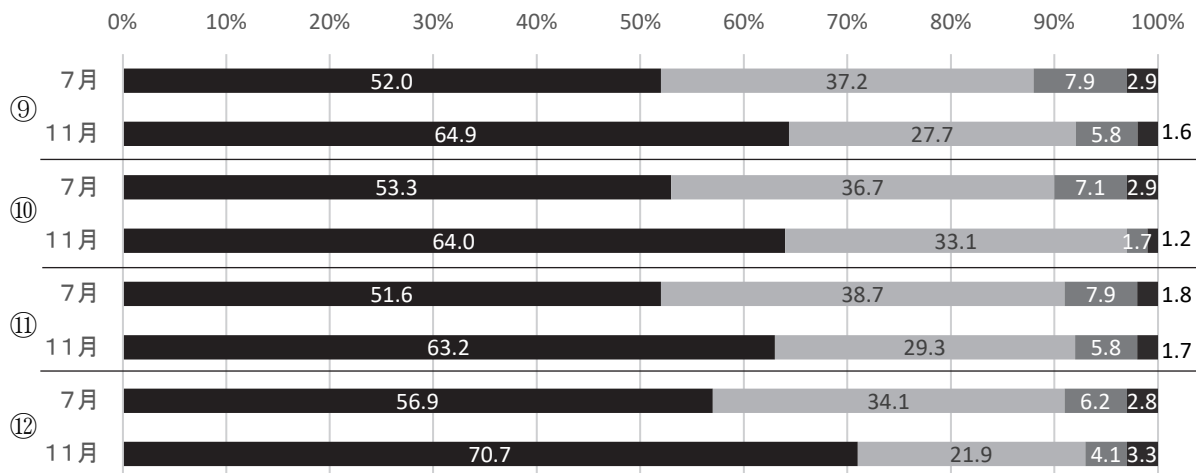


#### 【分類項目イ「自己有用感についての項目」】



※⑧自由記述は、p15 参照

#### 【分類項目ウ「学級活動における取組についての項目」】





【分類項目イ⑧「自分が学級や友達の役に立っていると思うのは、どんなときですか。」】

- ・学級会でみんなが納得する意見を言えたとき。　・手伝ったら喜んでくれたとき。
- ・自分の意見に友達が賛成してくれたとき。　・積極的に大変な係に入れたとき。
- ・歌合戦で踊って、みんなを盛り上げたとき。
- ・困っている友達を助けたら、ぼくのことでも大事にしてくれたとき。
- ・合体意見を言って、みんなが「すごい」と拍手をしてくれたとき。
- ・司会を頑張ったら、みんながにこにこしてくれたとき。

【手だてについての児童の自由記述】

(学級活動カードに関する児童の感想)

- ・学級や友達のよいところが見つけられるようになった。
- ・学級や友達のよいところをたくさん書けていい。
- ・書きやすい。　・分かりやすい。　・書くのが楽しい。　・本音を書ける。
- ・振り返りができていい。　・めあてが書けていい。　・自分のめあてを守ろうと思う。
- ・次のめあてができ、「次は頑張ろう」と思う。　・書くのが大変。難しい。

(学級活動レターに関する児童の感想)

- ・自分が書いたことや自分が出ているとうれしい。
- ・学級や友達のよいところや頑張っていることが分かっていい。
- ・友達の考えが分かる。友達からの言葉がうれしい。　・先生の考えが分かる。
- ・見るのが楽しい。もらうのがうれしい。
- ・レターに出ると自分がよいことをしたと分かる。
- ・友達の真似をしたいと思う。友達の考えを参考にできる。
- ・みんなも自分をほめてもらえることがうれしいんだ。　・改善点が分かっていい。

## 2 研究の成果と課題

検証授業及び調査結果から、本研究の成果と課題について以下にまとめた。

### (1) 成果

**視点1** 児童が自分のめあてを設定して実践し、振り返るための指導の工夫

ア よりよいめあての決定【手だて1】

学級活動カードを活用し、話し合い活動や実践の準備、実践時に「自分には何ができるか」、「自分の力をどう発揮するか」に焦点化しためあてを決めることにより、進んで活動に取り組めるようになった。

イ 「なりたい自分」を目指そうとする意識の向上【手だて3】

各活動の振り返りや学級活動レターを通して、自分のよさや頑張りが友達に認められることで、新たな可能性に気づき、更に力を発揮したいと思うようになった。また、友達のよさや努力に気づき、自分の行動に生かす児童が増えた。

ウ 自己有用感の高まりと参画しようとする意識の向上【手だて1・3】

学級活動カードや学級活動レターを活用することで、友達や学級のために自分の力を発揮したいと思う児童が増え、児童の自己有用感を高めることができた。話し合い活動や実践に、自分の考えや役割意識をもって臨む児童が増え、参画意識が高まった。

エ 自主的・実践的な態度の向上【手だて1・2・3】

学級活動カードや学級活動レターを活用して一連の活動における成果と課題を明確にし、それを児童が共有することで、新たな学級の課題を発見し、次の議題に進んで取り組もうとする児童が増えた。よりよい合意形成を図るための方法を考えたり、困難な場面でも、これまでの経験を生かして合意形成したりする姿が見られるようになった。

**視点2** 自他のよさや頑張りを共有・実感できるための指導の工夫

ア 自己肯定感の高まり【手だて1・3】

自分のめあてをもって臨んだ話し合い活動や実践が、提案理由を達成した協働的な活動となることで、自らの力を発揮したことを実感し自信をもつことにつながった。

イ 多様な個性を認め合おうとする意識の高まり【手だて2】

協働につながる姿を教師が明確に捉え、意図的に指導や助言を重ねることで、児童は自他のよさを生かしながら、学級の生活をよりよく、より豊かにしようと活動するようになった。一連の活動では、集団の中で発揮される力が個性として他者に認められようになることで、新たな人間関係を広げ、更に友達のよさに気付くことにもつながった。

ウ 学級集団への所属意識の高まり【手だて1・3】

児童一人一人が確かな参画意識をもって各活動に臨むことで、児童は学級への所属意識や愛着を高めた。実践の成功を通して、喜びを共有することで、友達との人間関係がより深まり、互いのよさを認め生かしながら生活を送ろうとする態度が育成された。

(2) 課題

ア 特別活動において育成を目指す三つの資質・能力の視点と「協働」との関連

「協働」について、本研究では「それぞれができることや得意なことで力を発揮しながら、共通の目的達成に向かって活動すること」と定義付け、研究を重ねた。特別活動において目指す資質・能力の視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」と「協働」との関連を明確することで、より効果的な指導ができると考える。

イ 指導と評価の一体化

評価の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」において、「協働」という視点においてどのような姿を目指すのか、実践を通して研鑽を深め、指導と評価の一体化を図る。

ウ 手だてを継続し、より効果を上げていくための時間の確保

本部会で検証した3点の手だてをより効果的なものにしていくためには、一定の時間を確保する必要があることが明らかになった。日々の限られた時間の中で、継続した指導を可能とするため、内容をより精選し汎用性を高めていく。また、自己有用感や自己肯定感の高まりがあまり見られなかった児童への指導方法も追究していく。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
世田谷区立尾山台小学校	主任教諭	矢 部 聡
足立区立千寿第八小学校	主任教諭	高 橋 信 行
昭島市立拝島第三学校	主任教諭	上 野 潤 子
町田市立七国山小学校	主任教諭	坂 本 理 恵
日野市立東光寺小学校	主任教諭	奥 山 良 太
東久留米市立第二小学校	教 諭	梶 原 真 唯
西東京市立保谷第一小学校	主任教諭	◎村 松 あ や
西東京市立東小学校	主任教諭	宮 腰 幸 子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 渡邊 徳人

平成 31 年度 (2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
小学校・特別活動

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849